

令和 4 年度「社会教育委員等研修会」報告

白神道子

令和 4 年度 6 月 29 日 12:30~16:40 長岡市立劇場 第 3 分科会 於さいわいプラザ

全 体 会

各分科会会場でのグループごとの話し合いを時折交えながら、分科会につなげるための「社会教育を通じたまちのみらいを創造する」というテーマで「みらいず works 代表 小見まいこさん」より講演。

- ① 最初に小見さんの自己紹介と、「みらいず works」の活動や理念の紹介。
- ② 分科会のグループ毎に自己紹介を兼ねてそれぞれの住んでいる地域の自慢、紹介したいこと等を語り合った。(5 分間)
- ③ 社会がすごいスピードで変化、複雑化していく中で、地域社会や身近にある課題を解決していくための学びを作ったり、支援したりする。学びを通して人づくり地域づくりを行う教育が社会教育である。
- ④ 現在、社会教育に求められることは、地域の課題を解決し、一人一人が当事者意識をもって地域活動に参画すること、地域をおもしろくすること、多様な人たちがつながりを持ち活動していく事が大事。
- ⑤ 活動していく上で、ボランティアベースでは活動は長く続かない。
- ⑥ 一人一人が当事者意識を持って、地域活動、市民活動に参画する「学び」「仕掛け」「豊かな地域づくりへの展開」を支援することが社会教育に求められている。(より良い未来を創造するプロジェクトや方策、場所を生み出すことが大事)
- ⑦ 分科会の隣同士での話し合いにより、現在社会の風穴を開けることの重要性をそれぞれの立場で提言しあった。(2 分間)
- ⑧ 社会教育を共有し理解していく上での足掛かりとして「SDGs」を選び、子どもたちの学びとして海岸のゴミ拾いをし、それを利用した「秘密基地づくり」をした。子どもたちは遊びの中から実際のゴミの多さ、それをどう解決したらよいかという問題に気が付いた。
- ⑨ フューチャーセッション(未来についての話し合い)をすることで、自分たちの生きている社会の問題、課題を発見し理解し、どういう地域社会を作っていくべきかの方向性が見えてくる。
- ⑩ ギャップアプローチ(問題を特定 → 原因を分析 → 解決方法を検討 → アクションプランを作成)ではなく、ポジティブアプローチ(強み、価値を発見 → 最大の可能性を描く → 現実的達成を共有化する → 新たな取り組み)が大事である。
- ⑪ ポジティブアプローチからの現実的な動きに至っている各地の取り組みを紹介。
 - * 島根県における地域の枠を超え子どもたちの意思を尊重した高校進学(地域未来留学)
 - * 佐渡での「Datcya coin」という地域通貨の活用により、地域に残る文化を観光客同士がつながり守っていく仕組み
 - * 東京都渋谷区での拡張家族のシステム(家族の概念を超えた取り組みにより、単一家族では解決できない問題が、家族の枠を広げることで解決できる可能性を追求)

以上のような話を投げかけた上で、分科会へと移行した。

分科会 テーマ 「世代、業種を超えたつながり」

事例発表・・・スタジオ*H5 蕪澤 篤様(十日町社会教育委員・建築士)

人口減少、少子化により、街、企業の未来を担う子どもたちがいなくなることへの不安を持ち、そこから街の未来をみんなでデザインしていく事を共有し考えあっている事を5人で始めた。

まちなか学園祭・・・(高校生とともにいった。高校生の部活などで培ったものを生かして市民に提供した。)

まちなかの新しい賑わいを活性化する取り組みをすることで人と人とのつながりを作っていた。

廃校利用・・・限界集落での廃校利用により、地域の文化、特性、自然を生かしたワークショップなどを行った。(ex・写真教室、星空観察、キャンプ体験、笹団子づくり etc)

シェアハウス作り・・・クラウドファンディングなどを利用して、限界集落にシェアハウス作りをして、移住者の受け入れ(外国人移住希望者もあり)活気を呼びもどす仕掛けをした。

女性起業家への支援・・・支援金を共有しながら何人かが集まって大きな価値に変えていく取り組み。

以上のように新しい取り組みにチャレンジして、街の活性化、世代を超えてみんながともに学びあう場所づくりをしてきたことのお話をお聞きした。

分科会グループ毎の討議・プレゼン(討議したことを寸劇として発表しあう。)

*住んでいる人が笑顔になる街ってどんな街?そのためにはどんな学びや場が必要だろう。

*世代間交流が少なくなっている。そういう場所が地域にあるのか。

*ネット社会が蔓延してきて人と人が実際に話し合う場所がなくなっている。バーチャルでできていることが本当の世界だと勘違いしている。学校の連絡などもネットで送られてくる。

*子どもたちが笑顔で暮らしていく事にネットでの情報がすぐ広がるのが行動を狭めている。

*安心安全に過ごせる場所づくりが大事。

*地域で子どもたちを見守る大人たちがいなくなっていることは、大人同士のつながりもなくなっているのも一原因である。

*みんながつながっていける場所づくりが必要だ。

等の意見から、公的な場所での制約の多さ、もしかしたらそれを取り払った使い方ができたらだれもが安心して集まれる場所づくり、日常茶飯事につながりのある街づくりができていくのではないかという前提で図書館を例に挙げて未来デザインの寸劇を提案しました。

図書館は本を読んだり、勉強する場所だから静かにしなければならないという概念を捨てて、地域の世代を超えた交流の場であると捉え、日常茶飯事に地域の人たちが訪れやすい場所であるように、図書館の中で近所の人採れた野菜を売ったり、小学生が捕ってきたカエルなどを来た人に配っている、近所の福祉大学生は、学校で習ったマッサージを施す場所を持ったり、お年寄りが昔遊びを披露して教えたり、というような今迄一定の人しか縁のなかった図書館が地域のつながりができていく場となり図書館自体も賑わってくるという設定で寸劇を作り、発表した。

参加してみても感想

社会教育という言葉になじみのなかった私ですが、大上段に構えなくても今まで自分が活動してきたことがすべて社会教育に繋がっているのだという確信が持てたと同時に、自分の地域での活動をもっと幅を持たせたものにしていきたいという思いも持ちました。講師の小見さんとは、古い知り合いで彼女が学生の頃、街の活性化のイベントと一緒に活動したことがあります。わかりやすいお話で社会教育の本質を気づかせてくれたことに感謝します。

令和 4 年度新潟県社会教育委員等研修会参加報告

2022.7.21 新潟市社会教育委員会議報告

雲尾 周

令和 4 年 6 月 29 日 12:30～16:40 長岡市立劇場・長岡市中央公民館

講義 小見まいこ（NPO 法人みらいず works 代表理事）

「未来を考える対話の場づくりの必要性～フューチャーセッションの意義～」

自己紹介、導入ワーク（地域自慢をグループの中で共有）

時代の変化にともない社会教育に求められること

地域の課題を解決し続けていく→一人ひとりが当事者意識をもって地域活動や市民活動に参画すること→自分たちの住む地域を面白くしたい、多様な人ともっとつながりながら活動したい、という前向きな気持ちになれるきっかけや学びの機会が地域にたくさん存在する→大人も子どもも、そして地域も成長する

きっかけとなる「学び」を社会のいたるところに仕掛け、豊かな地域づくりへの展開を支援することが社会教育に求められている

社会教育士

フューチャーセッション

教育や地域課題に関する切実なテーマを設定し、地域課題を解決したり、よりよい未来を創造するプロジェクトや方策を生み出す

- ・固定観念や先入観を超えるための多様な参加者
- ・誰もが参加できるオープンな場
- ・具体ではなく“抽象”。近視眼的問題ではなく“未来”から迫る本質的なテーマ

ギャップ・アプローチ（あるべき基準が外側からくる）からポジティブ・アプローチ（ありたい状態が内側から出てくる）へ：過去に焦点を当てるのではなく、未来の可能性を描く

G 問題を特定する→原因を分析する→解決方法を検討する→アクションプランを作成する

P 強み・価値を発見する→どうありたいか、最大限の可能性を描く→現実的達成状態を共有化する→新しい取り組みを始める

分科会（参加者数）

事例発表・問①の探求・問②プロトタイプで表現・発表準備・分科会内発表

第一(23) 浮須崇徳（NPO 法人ヨリシロ代表理事）「観光からのつながり」

観光は地元民にとって大切な営み。経済面だけではなく、つながりなど。

人口減少が進む農山村を残したい！

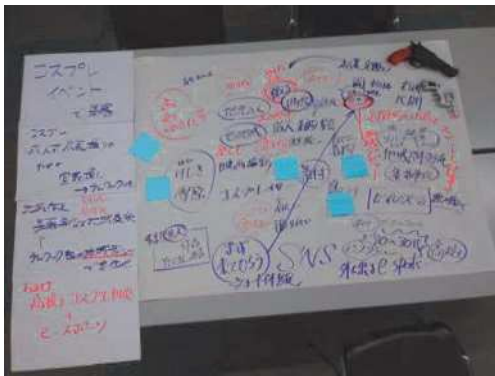
人口が減ったとしても生き活きと暮らす地域住民の人口を相対的に増やす

ことで、美しい故郷の持続可能性を高めていけるのではないかと
人と地方の複層的で継続的な関係性のヨリシロに
地方におけるチャレンジのヨリシロに

問①多様な人がまた訪れたいまちってどんなまち？

問②そのためには、どんな仕掛けが必要だろう？

私たちの暮らしに溶け込んだ地域の魅力を外なる観光事業者が集めてつないでみ
がいて商品にする



雲尾参加グループの成果物

第二(38) 松本将史 (株式会社能水商店代表取締役) 「地域と学校のつながり」

海洋高校マイスターハイスクール CEO (2018年まで16年間高校教員)

原料確保からお客様の満足まで生徒が関わる仕組み (魚醬最後の一滴)

海洋高校アンテナショップ → 高校人気高まり 100名以上の寮生

問①中高生がチャレンジしたいまちってどんなまち？

問②そのために、子どもたち(学校)と一緒に継続的にできそうなことは何だろ
う？

第三(29) 蕪澤篤 (スタジオ*H5) 「世代、業種を超えたつながり」

建築士集団が中等教育学校・高校に関わり、廃校利活用や女性参画推進

問①住んでいる人たちが笑顔になるまちってどんなまち？

問②そのためには、どんな学びや場が必要だろう？

ふりかえり 小見「社会教育委員としてできること、はじめの一步」

まとめ①自分自身の視座(器・認識)を高める

大人のアップグレード、自分とは違う価値観を知る

環境順応型知性→事故主導型知性→自己変容型知性

まとめ②多様な人と関わろう

特に若い世代との対話。葛藤やもやもやが大切。

多様な価値観を知ること、今までにない発想が生まれる

社会教育委員として、地域の仕掛け人として、やりたいこと

グループ内で共有しておしまい

以上